

利用・用途・応用分野

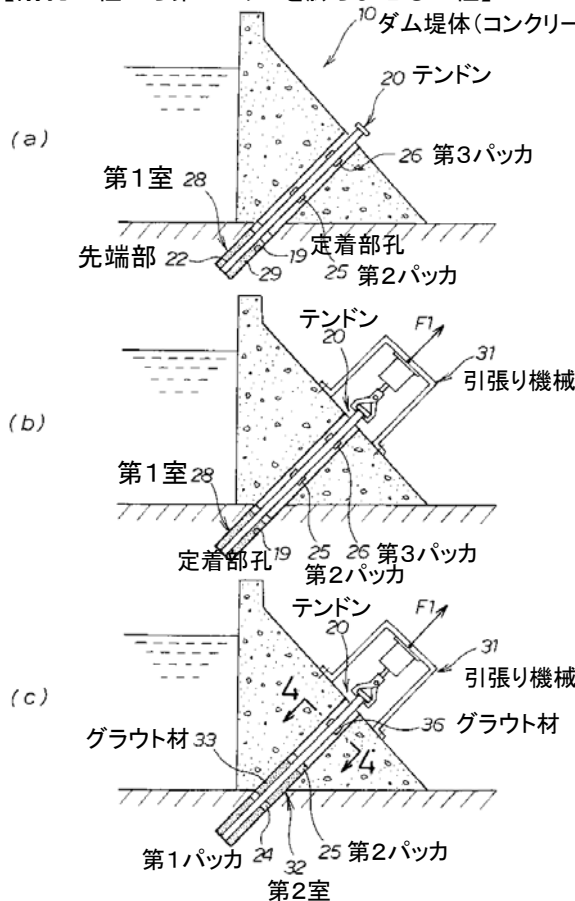
無料開放特許

ダム及び一般のコンクリート建造物の補強

目的・課題

コンクリート躯体にて、部分破壊を防止しつつ、長期間に亘って補強の効果が持続する、必要な部位にのみ圧縮力がかかる補強技術の提供を課題とする。

【削孔工程から第1パッカを膨らませる工程】



解決ポイント

テンションのかかる区間を短くすることで、 tendon 20 とグラウト材 29 との間に発生し得るクラックをより有効に防止できる。クラックの発生を防止することで、長期間に亘って補強の効果が持続する。

研究概要・アピールポイント

- ◆ダム堤体等大型コンクリート躯体におけるアンカー工法を大きく改善する
- ◆従来工法と異なり、定着位置を必要な位置に躯体内に分散して設けることによりアンカーによる躯体への過度の影響を避け、プレストレスト効果を大きく向上させることが可能
- ◆堤体ボーリング孔の途中での拡孔により塊状の定着部を形成する
- ◆モルタル・グラウト材によるボンドに工夫して摩擦抵抗を加減することにより定着位置の堤体内分散を行う
- ◆旧式化した重要コンクリート施設における補修・補強・地震などの外力増による事前補強を経済的かつ短期間に行うことが可能となる
- ◆維持管理の容易化・施設の長寿命化を果たすことができる
- ◆テンションのかかる区間を短くすることでクラックの発生を有効に防止し、長期間に亘って補強の効果を維持できる

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp